

P.6
(1)

(FP04072)

Japanese Patent Application Laid-open No. **2000-25799** discloses a pouch with pour function which comprises a nozzle protruding at an upper corner, an upper engaging groove and a lower engaging groove respectively provided on and under the nozzle, and a protrusion connected with the lower engaging groove is provided so that it is short enough not to protrude from a tip of the nozzle after being unsealed.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-25799

(P2000-25799A)

(43) 公開日 平成12年1月25日 (2000.1.25)

(51) Int.Cl.⁷
B 6 5 D 33/38

識別記号

F I
B 6 5 D 33/38

ターマート* (参考)
3 E 0 6 4

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-214754

(22) 出願日 平成10年7月15日 (1998.7.15)

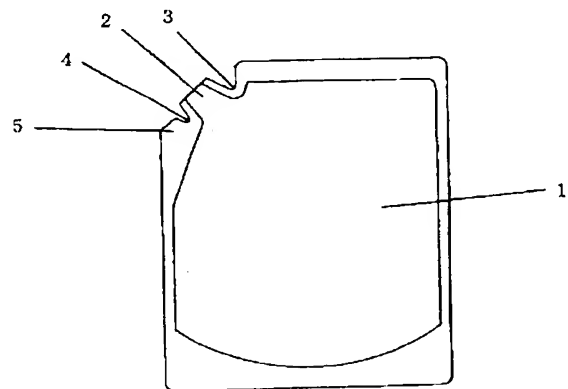
(71) 出願人 000003768
東洋製罐株式会社
東京都千代田区内幸町1丁目3番1号
(72) 発明者 相川 孝之
東京都目黒区五本木2-16-6
(72) 発明者 小沢 和美
神奈川県茅ヶ崎市中海岸4-1-48
(72) 発明者 安室 久和
神奈川県横浜市磯子区中浜町4-14
Fターム (参考) 3E064 AA05 AB23 BA17 BA25 BA26
BA30 BA36 BA54 BB03 BC18
EA12 EA23 HS05

(54) 【発明の名称】 注出機能付きパウチ

(57) 【要約】

【目的】 パウチ1内の内容物を、プラスチックボトル等の他の容器に詰め替える際に、液こぼれ等を生じることなく、容易に詰め替えが可能となる注出機能付きパウチを提供する。

【構成】 パウチ1の上方コーナー部に突出するノズル部2を設け、上記ノズル部2の上下に上方係合溝3及び下方係合溝4をそれぞれ設け、上記下方係合溝4に連続して突起部5を、開封後の上記ノズル部2の先端よりも短く突出しないように設けた注出機能付きパウチとする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】パウチ 1 の上方コーナー部に突出するノズル部 2 を設け、上記ノズル部 2 の上下に上方係合溝 3 及び下方係合溝 4 をそれぞれ設け、上記下方係合溝 4 に連続して突起部 5 を、開封後の上記ノズル部 2 の先端よりも短く突出しないように設けたことを特徴とする注出機能付きパウチ。

【請求項 2】突起部 5 の下方に連続して切り欠き溝 6 を設けたことを特徴とする請求項 1 記載の注出機能付きパウチ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、調味料、化粧品、液体洗剤等の内容物を注出する注出機能付きパウチに関し、詳しくは、上記内容物をプラスチックボトル、ガラス壺、あるいは他の容器に詰め替え易くした注出機能付きパウチに関する。

【0002】

【従来技術】従来、内容物をプラスチックボトル、ガラス壺、あるいは他の容器に詰め替えるため、上方コーナー部に外方に突出するノズル部を設けたパウチとして、特開平 7-2、260 号及び同 10-129、690 号等が提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記した従来のパウチは、パウチ内の内容物を、他の容器、例えば、プラスチックボトルに詰め替える際は、図 7 に示す上方コーナー部に外方に突出するノズル部 12 を設けたパウチ 11 を、図 8 の実線で示すように、先ず、上記パウチ 11 のノズル部 12 の下側をプラスチックボトル B の口部 C の上端に乗せ、次いで、この状態から仮想線で示す状態にパウチ 11 を回転させて、上記ノズル部 12 をプラスチックボトル B の口部 C 内に挿入し、上記パウチ 11 内の内容物を注出して詰め替えが行われる。

【0004】このため、パウチ 11 のノズル部 12 をプラスチックボトル B の口部 C の上端に乗せる際、及びパウチ 11 を回転して上記ノズル部 12 をプラスチックボトル B の口部 C 内に挿入して注出する際に、上記ノズル部 12 と上記口部 C の係合、あるいは接触状態が不安定で詰め替えがしづらく、液こぼれ等を生じ易い。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明によれば、パウチ 1 の上方コーナー部に突出するノズル部 2 を設け、上記ノズル部 2 の上下に上方係合溝 3 及び下方係合溝 4 をそれぞれ設け、上記下方係合溝 4 に連続して突起部 5 を、開封後の上記ノズル部 2 の先端よりも短く突出しないように設けた注出機能付きパウチが提供される。

【0006】また、本発明によれば、突起部 5 の下方に連続して切り欠き溝 6 を設けた上記注出機能付きパウチが提供される。

【0007】

【発明の実施の形態】図 1 乃至図 3 は、本発明の注出機能付きパウチの第 1 実施例を示す図で、1 はパウチ、2 はノズル部、3 は上方係合溝、4 は下方係合溝、5 は突起部、6 は切り欠き溝である。

【0008】パウチ 1 を構成する材料としては、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン、ポリエチレンテレフタレート等のポリエステル、ナイロン等のプラスチックフィルムから成る単層、あるいはこれらの 2 種以上から成る多層フィルム、さらには、必要に応じて、アルミ箔、エチレンビニルアルコール共重合体フィルム等を積層した多層フィルムが用いられる。

【0009】また、パウチ 1 の形態としては特に制限はなく、例えば、三方シールや四方シールの平袋、スタンディングパウチ等が挙げられる。

【0010】さらに、図 1 に示すノズル部 3 は開封後の状態を示し、図示しないが易開封加工部を設けることができ、1 字ノッチ、V 字ノッチ、上記ノズル部 3 を横断するミシン目やスコア、その他の薄肉化加工部が挙げられ、加工方法としては、レーザー加工、刃物、砥石等による機械加工等が挙げられる。

【0011】パウチ 1 は、図 1 に示すように、上記パウチ 1 の上方コーナー部に突出するノズル部 2 を設け、上記ノズル部 2 の上方に上方係合溝 3 を鋭角に設ける。

【0012】一方、ノズル部 2 の下方に下方係合溝 4 を鋭角に設け、上記係合溝 4 を介して、上記ノズル部 2 の突出方向とほぼ同一方向に、また、開封後の上記ノズル部 2 の先端よりも短く突出しないように突起部 5 を設ける。

【0013】ノズル部 2 を開封した後にパウチ 1 内の内容物を、他の容器、例えば、プラスチックボトル B に詰め替える際は、図 2 の実線で示すように、先ず、上記ノズル部 2 の下側をプラスチックボトル B の口部 C の上端に乗せると共に、突起部 5 の先端部を上記プラスチックボトル B の口部 C の側面に接触させて位置決めを行う。

【0014】次いで、この状態からパウチ 1 を突起部 5 を支点として回転させ、ノズル部 2 の下側をプラスチックボトル B の口部 C の上端部に係合させた状態で、さらにパウチ 1 を回転して下方係合溝 4 を上記口部 C に係合させながら、図 2 の仮想線で示すように、上記ノズル部 2 をプラスチックボトル B の口部 C 内に挿入し、上方係合溝 3 及び下方係合溝 4 を、上記口部 C にそれぞれ係合させて位置決めを行い、内容物を上記パウチ 1 から注出して詰め替えを行う。

【0015】尚、本実施例においては、図 3 に示すように、突起部 5 に連続して下方に延び、内方に凹む弧状の切り欠き溝 6 を設けても良く、この場合、図 2 の実線で示す状態で、上記切り欠き溝 6 がプラスチックボトル B の口部 D に乗るため、内容物の重量によるパウチ 1 のノズル部 2 の潰れが防止される。

【0016】図4乃至図6は、本発明の注出機能付きパウチの第2実施例を示す図で、上記した第1実施例と同じ部位については同一の符号を付した。

【0017】また、本実施例でも、上記した第1実施例と同様に、図4に示すように、ノズル部2の下方に設けられる突起部5は、開封後の上記ノズル部2よりも短く突出しないように、パウチ1の側方に向かってほぼ水平に設ける。

【0018】そして、ノズル部2を開封した後のパウチ1内の内容物を、他の容器、例えば、プラスチックボトルBに詰め替える際は、上記した第1実施例と同様に、図5の実線で示すパウチ1のノズル部2を上記プラスチックボトルBの口部Cの上端に乗せると共に、突起部5の先端部を上記プラスチックボトルBの口部Cの側面に接触させる。

【0019】次いで、この状態から上記パウチ1を回転させて下方係合溝4を上記口部Cに係合させながら、図5の仮想線で示すように、パウチ1のノズル部2を上記プラスチックボトルBの口部C内に挿入し、上方係合溝3及び下方係合溝4を、それぞれ上記口部Cに係合させて位置決めを行い、パウチ1内の内容物を注出して詰め替えを行う。

【0020】さらに、本実施例においては、図6に示すように、突起部5に連続して下方に延びる切り欠き溝6を設けても良く、この場合、図5の実線で示す状態で、上記した第1実施例と同様、内容物の重量によるパウチ1のノズル部2の潰れが防止される。

【0021】尚、本発明の注出機能付きパウチにおいては、パウチ1のノズル部2の上下に設けられる上方係合溝3及び下方係合溝4は、いずれもV字形あるいはほぼU字形で、上記ノズル部2の側端に対して鋭角に設けられる。

【0022】そして、その角度は15度乃至65度、特に、25度乃至55度が好ましく、上方係合溝3はノズル部2の側端に対して鋭角になるように、一方下方係合溝4は上記ノズル部2の側端に対して鋭角になる共に、上記下方係合溝4に連続して突起部5が設けられるように適宜選択される。

【0023】上記角度が15度未満であると、パウチ1を回転してノズル部2をプラスチックボトルBの口部C内に挿入する際に、上方係合溝3及び下方係合溝4を、上記口部Cに係合しづらくなり、また、65度を越えると、同様に、上方係合溝3及び下方係合溝4が設けることが困難となり、ノズル部2をプラスチックボトルBの口部C内に挿入した際にガタつきを生じ易くなり、いずれの場合もパウチ1を回転した際、あるいは回転後の位

置決めが正確に行われない。

【0024】さらに、本発明の注出機能付きパウチにおいては、下方係合溝4に連続して設ける突起部5は、開封後の上記ノズル部2の先端よりも短く突出しないように設ける必要がある。

【0025】パウチ1のノズル部2の先端を越えて突起部5を設けると、ノズル部2をプラスチックボトルBの口部Cの上端に乗せる際に外れてしまい、また、上記突起部5の先端部を支点として上記パウチ1を回転させた際に、上方係合溝3及び下方係合溝4を、上記プラスチックボトルBの口部Cに、確実に係合することが不可能となる。

【0026】

【発明の効果】本発明の注出機能付きパウチによれば、パウチ1内の内容物をプラスチックボトルB等の他の容器に詰め替える際に、パウチ1の上方コーナー部に突出して設けたノズル部2と、上記プラスチックボトルB等の口部Cとの係合、位置決め、あるいは接触が確実に行われ、液こぼれ等を生じることなく、安定した状態で容易に詰め替えが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の注出機能付きパウチの第1実施例を示す参考図。

【図2】本発明の注出機能付きパウチの第1実施例の使用状態を示す参考図。

【図3】本発明の注出機能付きパウチの第1実施例の変形例を示す参考図。

【図4】本発明の注出機能付きパウチの第2実施例を示す参考図。

【図5】本発明の注出機能付きパウチの第2実施例の使用状態を示す参考図。

【図6】本発明の注出機能付きパウチの第2実施例の変形例を示す参考図。

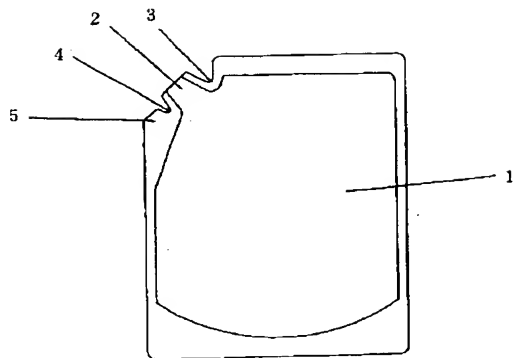
【図7】従来の注出機能付きパウチの参考図。

【図8】従来の注出機能付きパウチの使用状態の参考図。

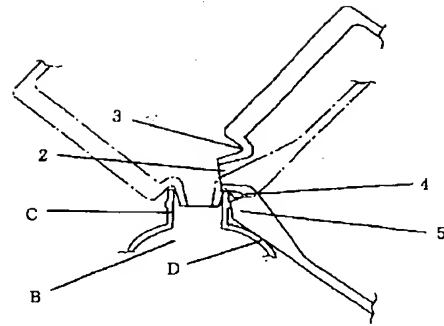
【符号の説明】

- | | |
|---|-------|
| 1 | パウチ |
| 2 | ノズル部 |
| 3 | 上方係合溝 |
| 4 | 下方係合溝 |
| 5 | 突起部 |
| 6 | 切り欠き溝 |
| 6 | |

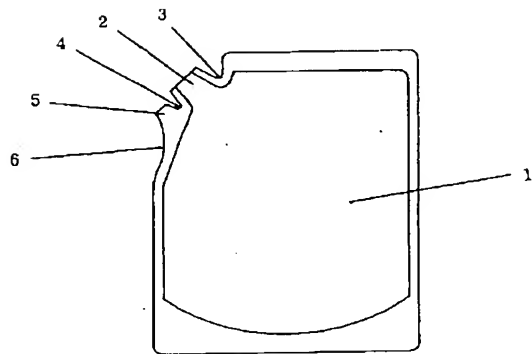
【図1】



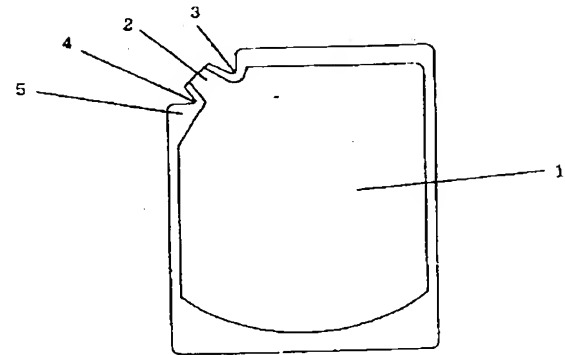
【図2】



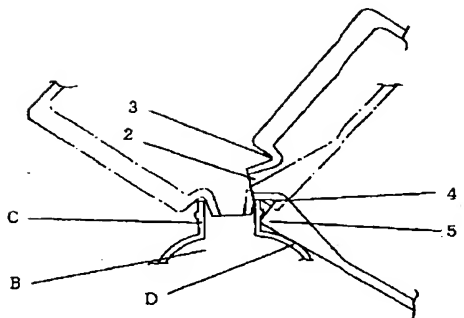
【図3】



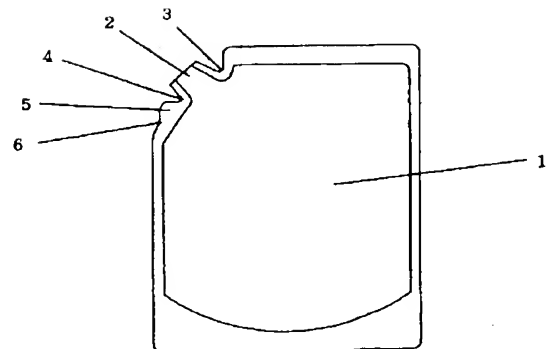
【図4】



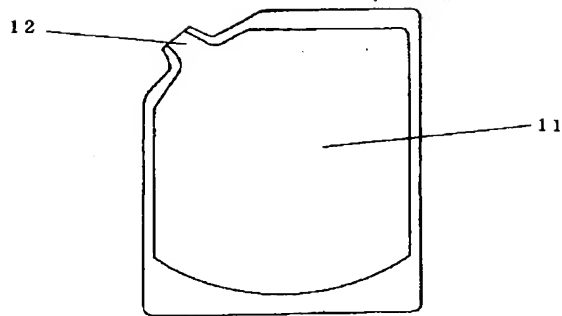
【図5】



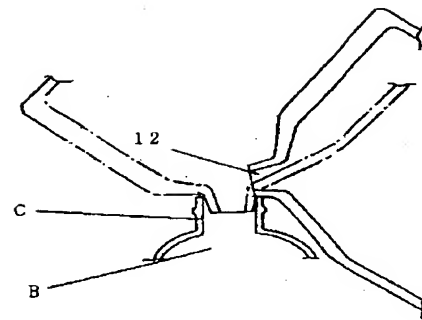
【図6】



【図7】



【図8】



【手続補正書】

【提出日】平成10年7月24日（1998. 7. 24）

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】さらに、図1に示すノズル部2は開封後の状態を示し、図示しないが易開封加工部を設けることができ、1字ノッチ、V字ノッチ、上記ノズル部2を横断するミシン目やスコア、その他の薄肉加工部が挙げられ、加工方法としては、レーザ加工、刃物、砥石等による機械加工等が挙げられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正内容】

【0023】上記角度が15度未満であると、パウチ1を回転してノズル部2をプラスチックボトルBの口部C内に挿入する際に、上方係合溝3及び下方係合溝4を、上記口部Cに係合しづらくなり、また、65度を越えると、同様に、上方係合溝3及び下方係合溝4を設けることが困難になり、ノズル部2をプラスチックボトルBの口部C内に挿入した際にガタつきを生じ易く、いずれの場合もパウチ1の回転、あるいは回転後の位置決めが正確に行われない。